

回 題	年 号	事 象
一〇三三	文政四	・十月廿七日、米山が伊予松山藩に参勤。藩主松平重信に謁見し、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇三二	文政三	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇三一	文政二	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇三〇	文政一	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇二九	享和	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇二八	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇二七	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇二六	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇二五	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇二四	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇二三	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇二二	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇二一	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇二〇	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇一九	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇一八	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇一七	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇一六	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇一五	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇一四	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇一三	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇一二	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇一一	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇一〇	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇〇九	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇〇八	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇〇七	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇〇六	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇〇五	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇〇四	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇〇三	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇〇二	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇〇一	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。
一〇〇〇	天明	・八月、藩政の善悪を論じ、藩政の刷新を建議す。

○高市俊次作成の年表より(米山顕彰会編「米山の魅惑」清流出版 2008)

●愛媛大学図書館 米山コーナー (図書館2階西エリア)



米山日記 [レプリカ]と
米山関連圖書の閲覧が可能です。

<米山関連圖書>

米山・人と書
渡海頼山/著 (風美社)

米山の魅惑
米山顕彰会/監修 (清流出版)

三輪田米山遊記
べいざんガイド
横田頼雄ほか/著 (木實社) など



<米山日記のレプリカ>

この「のぼり」が
目印です！



平日 9:00～22:00 (夏季/冬季休業中は17:00まで) ☎(089)927-8845
土・日・祝 9:30～17:00 (夏季/冬季休業中は休館)

会場「愛媛大学ミュージアム」のご案内

入館料 無料
開館時間 午前10時～午後4時30分(入館は午後4時まで)
休館日 (1)火曜日
(2)その他 年末年始(12月28日～1月4日)
大学入試 センター試験日、前期・後期日程試験日
メンテナンス休館(2月1日～15日)
臨時休館

☎(089) 927-8293

- 伊予鉄道市内電車をご利用の場合
環状線「赤十字病院前」下車、北へ徒歩約5分
- 伊予バスをご利用の場合
東四国線「愛媛大学前」下車
- 駐車場
土曜・日曜及び祭日(いずれも休館日を除く)は、
正門から入ってキャンパス内の駐車場をご利用ください。
(駐車の場合は利用できません。)
降りば駐車場の出口から出てください。
平日は公共交通機関を利用願います。



〒790-8577 松山市文京町3番



http://www.museum.ehime-u.ac.jp/



http://www.lib.ehime-u.ac.jp/

2011年9月発行



みわだ べいざん

第2回 米山 仮名の美

三輪田米山「みわだべいざん」

三輪田米山は、一八二一(文政四年、伊予松山の日尾八幡社神宮三輪田清政の長男)として生まれ、一八〇八(明治四年)に没したが、伊予の神主である米山は、明治維新をはるかに先駆ける時代に生きながら、王権を認めず、藩政の古風を深く学び、独自の書風を形成した。

米山の書業としての名書は、存命中から伊予一田に渡り、それは、日尾八幡神社の庄屋田代清次(一八四八)年、米山が藩政を継いでから明治四十一年(一九〇八)年八十八歳に至るまで続けたものであり、米山の人となりを示すだけでなく、当時の日本、伊予の歴史や生活を具体的に記す、貴重な歴史資料となっている。

大阪の書業家山本春次郎は、國家佐治三の孫として書道に専らた書業家であるが、米山をあの明月、血氣、筆威、筆量に及ぶらない、あるいはどうかすると大字においてはこの四倍にも倍り、倍におうては書業に及ぶものではない(『米山の書道』三輪田米山)と賞賛している。





仮名屏風 2曲
屏風 (表 132×81cm) (実成大学図書館蔵)

「五のぼる仮名のかはりのあややせはまははへとなりける難」

狂なく神な川にかけ見やまなきのはな

米山の仮名作品 — 線条の美と造形の妙 —

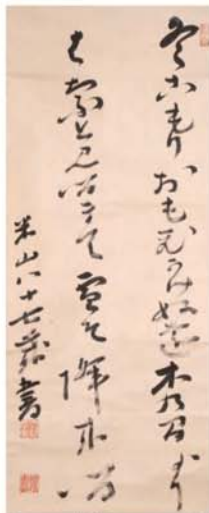
米山は多くの仮名作品を残している。特に晩年は仮名作品の依頼も多かったようで、86歳ごろから没年88歳の年齢の署名が、漢字作品に比べて目立つ。

浅海蘇山は、米山の仮名作品について、次のように述べている。

「和歌を学び、自らも約五万首の歌を作った米山は、かなの手腕も卓越し、その線条の美と造形の妙は、漢字に劣らぬ名品を残している。」
「俳句作品は和歌以上に自由奔放で、その奇趣は米山の真面目であり、快作が多い。」(『米山 人と書』黒美社 1969)

米山の仮名は、行の中心がゆれていたりと、文字の大小が極端であったりなど、奔放自在とも言えるが、特に俳句の作品に特徴的なように、全体としての空間構成、バランスはきちんと整えられている。それは、漢字少字作品の空間構成と感覚的には同じものである。

その自在さ、俗臭のなきなど、現在米山の仮名作品は、かの良寛に比して語られ始めている。とともに、伝小野道風作「秋萩帖」を学んだというのは、偶然ではないかもしれない。



米山ハセキチ書

冬こもりおもひかけぬを木の葉よりはなと形なるまき雪も降り来る



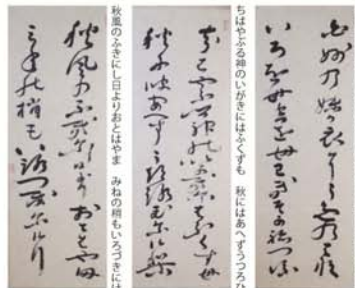
三輪田米山肖像

米山が多用する変体仮名例

き	こ	せ	つ	な	の
伎	許	勢	都	難	廻
ひ	ま	め	母	梨	路
飛	満	免			

助詞の表記例

かも	こそ	
鴨	社	など



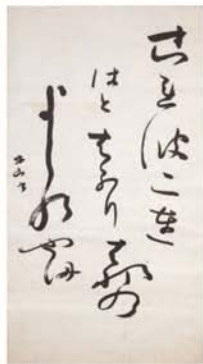
白雲の疑が衣にめのはな、いろを香をもむきつむる
心ゆ刀嬉衣了一と方衣
いろを香をもむきつむる
秋にはあへずつゆもはなはけり
秋にはあへずつゆもはなはけり
秋にはあへずつゆもはなはけり
秋にはあへずつゆもはなはけり
秋にはあへずつゆもはなはけり
秋にはあへずつゆもはなはけり



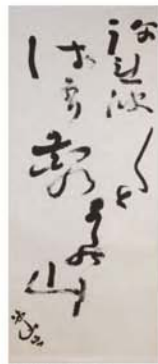
輪 (19×35cm) (個人蔵) 輪 (19×14cm) (個人蔵)

たんぼつ所用書してももの様

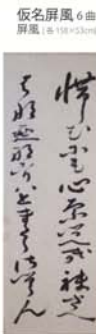
圓紙やたなくならふかたなりす



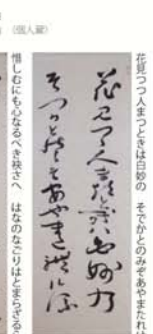
輪 (112×61cm) (個人蔵)



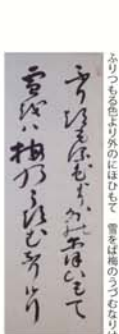
輪 (112×60cm) (個人蔵)



仮名屏風 6曲
屏風 (表 138×53cm) (個人蔵)



推しむる心もあへずはなはけりはなはけりはなはけりはなはけり



ふりつちも色もけり外のはほりて、雪をは梅のしむりけり



米山日記
日記 (実成大学図書館蔵)
＜実成大学図書館2Fでは平日レプリカを閲覧できます＞



日尾八幡神社の注連石
「鳥舞魚躍」拓本 (114×33cm)

